北海道浮魚ニュース

令和 7(2025)年度 12 号
2025 年 9 月 5 日
道総研 函館水産試験場
【URL】https://www.hro.or.jp/fisheries/research/kushiro/topics/ukiuo_news.html

◎太平洋いか類漁場一斉調査結果

8 月 19 日～23 日の期間、津軽海峡～道南太平洋で、函館水産試験場調査船金星丸（151 トン、2 連式イカ釣機 5 台、集魚灯 20 灯装備）により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

・ スルメイカの分布密度は低く、昨年を上回ったが過去 5 年平均を下回った
・ 体サイズは昨年および過去 5 年平均と比べて同程度であった

１．水温分布（図 1）

2025 年と 2024 年の調査における、各調査点とスルメイカの CPUE、深度 50m の水温分布を図 1 に示しました。漁獲調査を実施した 4 点の表面水温は 23.5～26.3℃（2024 年：23.1～24.0℃）、深度 50m の水温は 12.2～20.9℃（2024 年：10.9～18.1℃）の範囲にありました。調査海域における表面水温および深度 50m の水温は、全体的に 2024 年よりも高くなっていました。

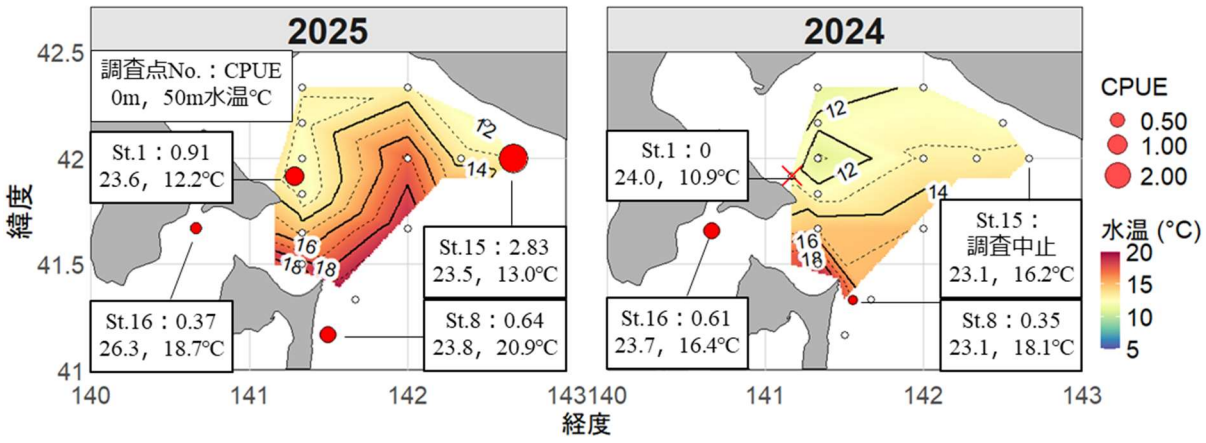

図1　スルメイカの漁獲調査結果と深度50mの等温線図（左：2025年、右：2024年）
●はCPUEを、×は漁獲がなかった調査点を、○は海洋観測のみの調査点を示す

２．流向流速分布（図 2）

航行中の ADCP 観測により得られた深度 50m における 2025 年と 2024 年の流向流速を図 2 に示しました。どちらの年も津軽海峡東部から東へ向かう強い流れがありました。道総研では北海道周辺海域で、2 ヶ月ごとに 3 隻の調査船を用いて定期海洋観測を行い、海況速報を発信しています。以下の URL にて公開していますので、こちらもご参照下さい。
https://www.hro.or.jp/fisheries/research/central/section/kankyou/sokuhou.html

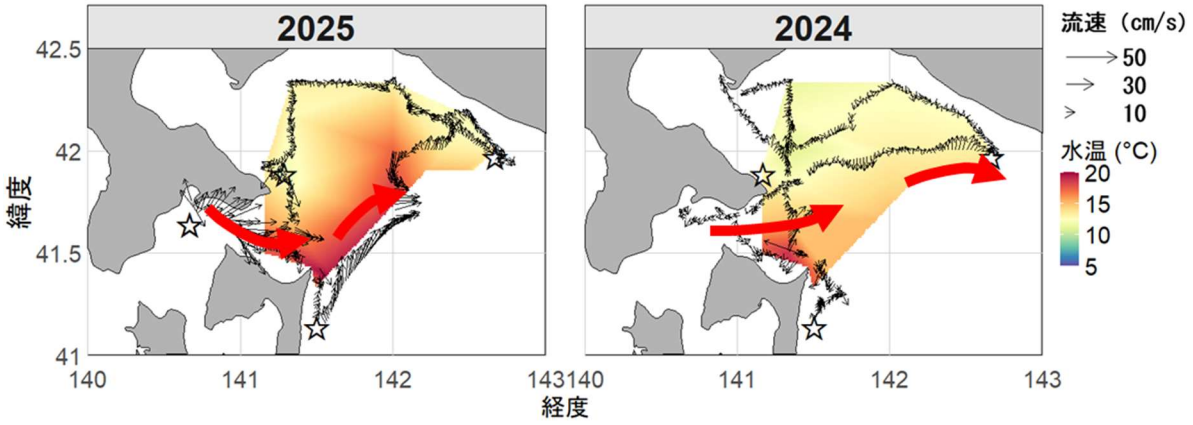

図 2　2025 年（左）と 2024 年（右）の深度 50m の流向流速と水温分布図
赤い矢印は津軽暖流の模式図を、☆は漁獲調査点を示す

３．スルメイカ分布密度（図 1、図 3）

漁獲調査点では、2 連式イカ釣機 5 台を用いて日没後に 5 時間以上漁獲調査を実施しました。漁獲調査地点の平均 CPUE の経年変化を図 3 に示しました。2025 年に調査を実施した 4 地点の CPUE（イカ釣機 1 台 1 時間当たり漁獲尾数）の範囲は 0.37～2.83 でした（2024 年：0～0.61，過去 5 年：0.00～5.78）。平均 CPUE は 1.19 で、2024 年（0.32）よりも高く、過去 5 年平均（1.79）よりも低い値でした。CPUE が最も高かったのは浦河沖の St.15 で CPUE は 2.83（2024 年：調査中止，過去 5 年平均：0.03）でした。また、各漁獲調査点でたも網採集を実施したところ、イカ釣りでは採集しにくい小型のスルメイカが確認されました。

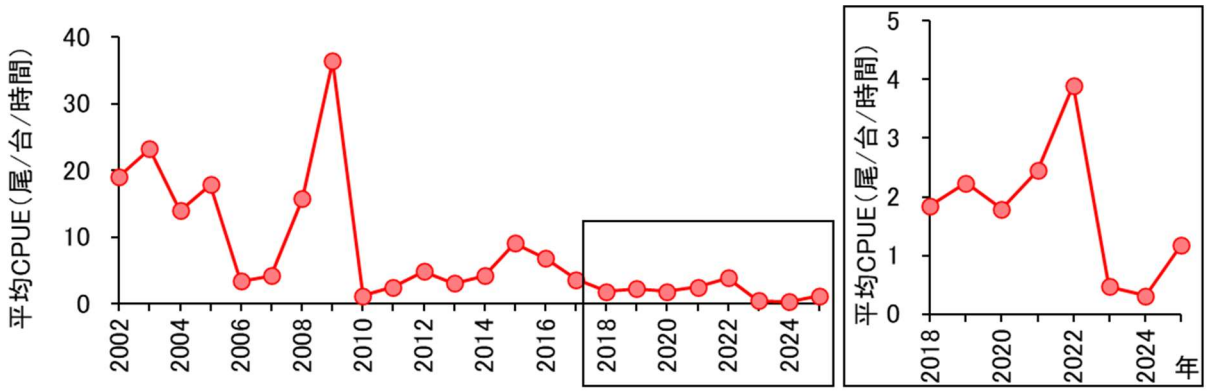

図 3　太平洋いか類漁場一斉調査における平均 CPUE の経年変化
右図は 2018 年以降の拡大図を示す

４．スルメイカの大きさ（図 4）

漁獲調査で採集されたスルメイカの外套長の範囲は 12～21cm(2024 年: 14～22cm)でした。出現率のモード（最も多く出現したイカの大きさ）は 2025 年が 17cm、2024 年が 16cm および 21cm、過去 5 年平均が 16cm であり、2025 年のスルメイカの外套長は 2024 年および過去 5 年平均と同程度でした。また、漁獲調査点でたも網を用いて採集されたスルメイカの外套長の範囲は 3～13cm でした。

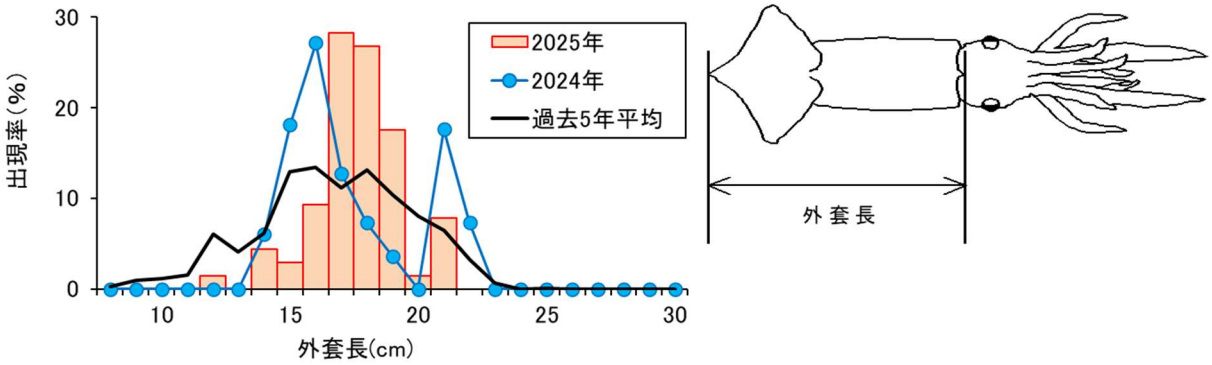

図 4　調査海域全体の外套長組成

※本調査の一部は水産資源調査・評価推進等委託事業により実施しました。

金星丸 海洋観測速報　https://hro-fish.net/kinsei/
（函館水産試験場試験調査船金星丸の海洋観測結果がご覧になれます。）

お問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部，TEL: 0138-83-2893
FAX: 0138-83-2849

地方独立行政法人
北海道立総合研究機構